

令和元年度 第2回浦安市生涯学習推進計画策定懇談会

議事要旨

日時：令和元年8月2日（金）

午後2時～4時

会場：市役所10階 協働会議室

<出席委員>

野島	正也	会長
藤田	朗	副会長
野川	春夫	委員
関谷	昇	委員
米山	泉	委員
影山	栄子	委員
吉野	忍	委員
武澤	秀明	委員
工藤	真由美	委員
福元	明彦	委員
長島	康晴	委員
阿部	信之	委員
上野	実千代	委員
登内	明	委員

<欠席委員>

なし

<議 事>

1. 開会
2. 議事
 - (1) 計画素案について
 - ・第2次生涯学習推進計画
 - ・生涯スポーツ推進計画
 - (2) 今後のスケジュールについて
3. 閉会

<配布資料>

- ・【資料1】第2次生涯学習推進計画・生涯スポーツ推進計画 素案
- ・【参考資料】令和元年度第1回生涯学習推進計画策定懇談会 主な意見まとめ
令和元年度第1回生涯学習推進計画策定懇談会後の意見シートまとめ

1. 開会

会長よりあいさつが行われた。

教育委員会を代表して生涯学習部長よりあいさつが行われた。

2. 議事

(1) 計画素案について

・第2次生涯学習推進計画

事務局より説明が行われた。各委員からの主な意見は以下のとおり。

(委員) 全体的にわかりやすい構成になった。

P38 文化芸術活動の成果指標について、個人の好みに関わる部分でもあると思うので、指標として妥当ではないのではないかと感じる。市民意識調査の中で重要度と満足度を分析していたが、そこから数値を持ってきてもよいのではないか、

(委員) 成果指標が細かく整理されているが、全体の傾向がわかればよいのではないか。

(事務局) ご意見をもとに修正を検討する。

(委員) P23 の重点②のマークに誤植がある。

(事務局) 修正する。

(委員) 前回の案と比較して、具体的な事業が削除されているが、あった方が計画の方向性を理解しやすいのではないか。

(事務局) 生涯学習、スポーツの基本計画という位置づけであり、10年間の基本的な方向性を示すことから事業名は抜いている。事業については別冊でまとめる予定である。

(委員) 基本計画という計画の性質上、方向性のみを示すということは妥当でもある。事業まで記載する計画もあるが、一長一短である。

(委員) 別冊でできるならそれでよいと思う。

「まなびねっと URAYASU」の年間アクセス数を成果指標に掲げるのは違和感がある。情報提供の代表的な手段として10年間継続して把握していくものなのか。現状、社会教育関係団体もシステムを十分に使いこなせているようには見えない。

(事務局) 「まなびネット URAYASU」は、ご指摘のとおり、一時、社会教育関係団体に登録を促したことから登録件数が増えたが、その後あまり更新されていない。また、アクセス数も毎年減少傾向にある。利用団体が情報を更新しやすいくみを考えていく必要があると感じている。また、市の他のポータルサイトとの連携も必要だと考えている。

指標としては、情報の入手しやすさや満足度を測っていくという考え方もある。

- (委員) 計画書としては理解しやすくなっていると感じる。
P24の成果指標について、中間年の目標値65%も達成は簡単ではないと感じる。計画の評価は指標の数字だけに引っ張られないようにしてほしい。市民に対しては、計画そのものの認知度向上、PRの取組も推進できるとよい。
P14の現状では文章とグラフの内容が一致していない。図の番号を附番するとともに、内容をあらためて精査できるとよい。
- (事務局) 文章と図の整合はあらためて確認して修正する。
- (委員) 前回の案では、障がい者の学習支援などが見えていたが、最終的にこの計画が目指すところや重きを置いているところを、例えば紙一枚程度でわかりやすく説明できるよう要約することを見据えて構成を検討していけるとよい。
- (事務局) 前回の案では、重点的な取組の中で、「障がい者の学習支援」を3つ目の取組の柱として記載していたが、社会教育委員会と公民館運営審議会において、「本市における外国人の増加などの国際化の状況を踏まえ、外国人を含め誰もが学べることを包含した方がいいのではないか」との意見をいただいたことから、P20重点的な取組1において、障がい者の学習支援に、外国人の増加への対応という趣旨の記述を加えるとともに、取組の名称を「学びを通して誰もが共生できる環境の充実」とした。
- (委員) 基本目標の「地域に生きる」という表現はどういう趣旨か。
- (事務局) P18で記載しているが市民が生涯学習を通して地域に生きている実感を持つことを目指すという趣旨である。
- (委員) 基準値、目標値として数値を掲げているが、施策を推進していくキーワードは、生涯学習への参加や関心を喚起していくことではないか。また、市民意識調査をもとに目標値を定めるのであれば、平成22年度調査時からの推移に基づき設定するとよいのではないか。計画書に記載しなくとも、目標に掲げる数値の根拠は説明できるように整理しておけるとよい。
- (事務局) ご意見をもとに検討する。
- (委員) P42高校生が本に親しむための支援として、図書館は具体的にどのような取組を行うのか。どのような接点があるかも伺いたい。
また、P44郷土博物館については、国や県、事業者との連携

- も大事なのではないか。こうした視点も追記できるとよい。
- (事務局) 図書館における高校生の読書支援の取組については、図書館クラブやリクエスト対応など、高校生との接点はすでによくつかあり、こうした取組を推進していく。
- (委員) P32②において、「まなびねっと URAYASU」の人材登録については、知らずに活動している人もいると思う。市がそうした人材を発掘していくといいのではないか。加えてそうした人の育成支援にも取り組んでいけるとよい。
- P34②社会教育主事の配置に人数も必要なのだろうとは思いますが、職員の資質を向上して、どうなっていくかということを示せるとよい。
- (委員) 指標は施策の進捗を把握するための参考である。その推移をみてどうしていくかを示していけるとよい。
- 社会教育主事の配置人数について、発令が8人ということか。
- (事務局) 発令が8人ということである。
- (委員) 多面性と横断性という観点からお話したい。例えばeスポーツは情報教育の入口にもなり、若者のまちへの関心喚起につながることで期待される。新しいスポーツの持つ多面的な広がりや計画の中で書き込めるといいのではないか。
- この計画は、生涯教育を範囲としているように見えるが、生涯教育は、取組の成果によっては、まちづくりや、観光振興などにもつながることが期待されることから、他の部署と連携して取り組むなど、多面性について考えていただきたい。
- 横断性について、例えば施策1-1では公民館資料に基づく指標があげられていたり、生涯学習情報の提供、学習相談とあるが、市民目線にたつと、主体的に学びに取り組んでいくためには、情報提供の内容をもっと多様化するとともに、整理することが必要ではないか。こうした情報提供の交通整理は、生涯学習分野だけでなく、まちづくり分野、市民活動分野等とも連携することで必要な情報が的確に届いていくだろう。
- こうした点をふまえて、何がどう変わるかということを見据えて指標を検討していけるとよい。
- 成果指標を盛り込む意味合いは、アウトプットではなくアウトカムであるべきだろう。こういう現状がこう変わりましたという成果を計る指標を検討していけるとよい。それぞれの指標はどのような課題について何をどう変えようとしているのか、実際どう変わったのかをあぶりだすような指標でなければ載せる意味は半減してしまう。そういう視点でもう一度、

- 成果指標をどう盛り込むかを精査していただきたい。
- (事務局) 多面性、横断性という点について、この計画の枠組みが教育大綱、教育振興基本計画にもとづくものであることから、他の計画との兼ね合いの中でどこまで間口を広げていけるかはあらためて考えていきたい。
- (委員) 指標を見ながら何がどう変わっていくかということを考えていけるとよい。
- P42「新たな知識を創造する図書館」とあるが、少しわかりにくいと感じた。「知識を広げ、深める図書館」といったようにわかりやすいのではないか。
- P44「新たな浦安の魅力を発見できる博物館」とあるが、求められるのは必ずしも新たな浦安の魅力ではないのではないか。「浦安の魅力を“新たに”発見できる博物館」ではないか。テーマはその項目全体を表すものなので、再考を検討できるとよい。
- P25①成果指標について、青少年、成人、高齢者と区別しているが、正確に把握できるのかが気になる。ここまで区別しなくてもよいのではないか。また、高齢者教育という言葉は昨今、用いることはほとんどない。指標をこのままにするのであれば高齢者の学習支援といった表現とできるとよい。

・生涯スポーツ推進計画

事務局より説明が行われた。各委員からの主な意見は以下のとおり。

- (委員) P69②成果指標「スポーツ推進委員の取組数」について、定員を満たしていない実情はあるが、委員の数を増やせばよいものではないと考えている。具体的なアイデアはないが、新たなイベントの実施回数など、中身のある指標を設定できるとよい。
- また、支える人材の育成・活用・支援ということであれば、スポーツ推進委員以外にもスポーツ協会や軽スポーツ協会について言及されているとよい。
- (委員) イベントとなるとP69①の成果指標となるだろう。②では、スポーツ協会や軽スポーツ協会についても追記してほしい。
- (事務局) ご意見をもとに修正を検討する。
- (委員) 全体的にわかりやすい構成だと感じる。
- 1点、P68 成果指標の団体加入者数はどのように算出したのか。また、目標値の設定根拠はあるのか。

- (事務局) 社会教育関係団体に認定された全団体の加入者数である。目標値は明確な根拠はないが、現状値をふまえて設定している。
- (委員) みるスポーツ、ささえるスポーツも含めてスポーツの参画人口を拡大していくことは重要だと感じている。スポーツ健康都市宣言の認知度も向上させていく必要があるだろう。障がい者のスポーツについても、インクルーシブスポーツの団体を増やしたり、交流会等において体験の機会をさらに充実したりしていくことが重要だと感じている。
- (委員) P68 成果指標の団体加入者数について、現状維持に近い数値では10年間の計画として夢がない。インクルーシブスポーツの団体を増やすなど、市民のスポーツの機会を充実してけるとよい。
- (委員) P68 成果指標の団体加入者数について、市内でスポーツをする人は増えているようにも感じるが、団体に加入している市民は減っている。
P60②「生涯スポーツ健康都市宣言」の啓発について、具体的に何をするかイメージがしづらい。認知度が低いことは課題だと感じており、5年後の目標値が40%というのもまだ低いと感じる。
- (委員) 市民の認知度を大きく向上させるには市の広聴広報課との連携も必要になるだろう。
- (委員) 軽スポーツ(ニュースポーツ)の認知度もまだ低いと感じる。名称から種目がイメージしづらいということもあるかもしれないが、この点も改善してけるとよい。
- (委員) 軽スポーツとニュースポーツについて、定義に大きな違いがあるのか。
- (委員) 明確な定義がなく、あくまで総称である。時代背景にもよるが、意味が混同されている側面もある。最近は軽スポーツという用語が使われる機会は減ってきている。
- (委員) 昔からあるニュースポーツもあるし、ラグビーなど最近盛り上がっている種目もある。
- (委員) P59②は障がい者のスポーツ実施の環境を充実していく取組のように受け取れるが、そもそも障がい者でスポーツの場に足を運ぶことが困難な人も多くいる。会場までの移動などを考慮すると、連携・協力はスポーツ関係団体だけでなく、福祉の部門とも行う必要があるだろう。
- (委員) P59②は健常者も一緒に行くものか。
- (事務局) インクルーシブスポーツは障がいのある人と障がいのない人

が共に取り組むことができる種目である。

- (委員) P38④の成果指標は障がい者のみを対象としたものである。こちらはインクルーシブの視点はあるのか。
- (事務局) P38④の成果指標は考え方を整理する。
- (委員) P38④の施策は、生涯学習の重点的な取組1に関連するのではないか。
- (事務局) ご意見をもとに修正を検討する。
- (委員) 3点ある。1点目、P64①についてボランティアと一括りにせず、適切な人材を適切な場所に配置することで地域のニーズにあった活躍の場を提供するということまで踏み込んでいけるとよい。また、チームの引率やサポートなど間接的にささえるということも視野に入れた施策となるとよい。2点目、eスポーツやアーバンスポーツは特にささえるスポーツがあって成り立つ側面もある。また、こうした新たなスポーツの普及を見据えて場を拡充していくということであれば、「オープンスペースの活用」はキーワードになるだろう。3点目、生涯スポーツ健康都市宣言をこのまま手を加えず認知度を向上させていくのは現実的ではなく、例えばキャッチコピーを2～3年おきに変更し、その時の市民ニーズにあった取組に力を入れていくこともよいだろう。
- (委員) 例えばラグビーワールドカップを控えて、市内の各所でポスターを見かけるが、あまり盛り上がっていないように感じる。広報のやり方を工夫しないと、市民全体の認知度は向上していかないだろう。
- (委員) 一見して宣言と市の計画の方向性が一致しているように感じられない。事業にひもづくようなものとして位置づけられるとよいのかもしれない。
- (委員) 柔道などの競技にかつては生涯スポーツという認識はなかったと思うが、現在はスポーツ協会の加盟団体であり生涯スポーツとして捉えている。
- (委員) 生涯スポーツという観点をしっかり伝えていけるとよい。ボランティアについても先ほど意見があったが、障がい者が現場に足を運ぶサポートもふまえて考えていけるとよい。
- (委員) ガイドヘルパーという職種に対してスポーツ分野からオーダーを出していけるとよいかもしれない。
- (委員) ボランティアとして参加する人を都合よく扱うことは避けなければならない。人材を適切に配置するしくみを考えていかなければ、持続性がなくなってしまう。

- (委員) 2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に注目されたボランティアについて、考えを深めていけるとよい。
- (委員) 若い世代のスポーツを推進していくために、ファミリースポーツの場や機会を充実していけるとよい。
- (委員) ファミリースポーツとは具体的にどういうものがあるのか。
- (委員) 親子マラソンなどが他市の取り組みで行われていた。
- (委員) パークゴルフやファミリーバドミントンもあり、人気もある。その中でルール理解促進やマナーの向上が重要になる。
- (委員) どの団体がそうした取組を推進していくことになるのか。
- (委員) 軽スポーツ協会ではないか。
- (委員) P59③のスポーツの新たなニーズの中で言及できるとよい。P59①の成果指標は細かいので、総括して評価してもよいだろう。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局より議事(2)策定スケジュールについて説明が行われた。

3. 閉 会

以上